

あたたかい子
かしこい子
たくましい子

学校だより

つよし

—第12号—

令和3年6月21日
平戸市立津吉小学校
文責 校長 田川定司

津吉っ子の心を見つめる教育週間

6月14日（月）から20日（日）の期間、津吉小学校では、「津吉っ子の心を見つめる教育週間」を設定し、保護者・地域の皆様に学校を公開して、津吉の子供たちを共に健やかに育てていくよう取組を進めました。教育週間中の主な活動を紹介します。

14日（月）	15日（火）	18日（金）
<p>【全校朝会】 「命の大切さ」についての校長講話</p> <p>【クラブ活動】 今年度初めての活動で「はじめの会」をしました。今年も地域の6名のボランティアティーチャーの皆様と活動します。</p> 	<p>【ようこそ先輩】 善果園の近藤重雄様より、平戸夏香の誕生の経緯やふるさと平戸への思いを講話いただきました。</p> <p>【いちご狩り】 宮田克幸様のハウスで、全校児童、いちご狩り体験をさせていただきました。</p> <p>【読み聞かせ】 図書ボランティアともだちやの方や保護者の皆様から読み聞かせをしていただきました。</p>   	<p>【道徳授業参観】 「命の大切さ」について全学級、道徳の授業公開</p>  <p>【津吉っ子を語る会】 SNSノートを使ってメディア研修を実施しました。</p> 

自分の「いのち」は自分で守る

この教育週間は「いのち」の大切さを考える機会でもあります。そこで、教育週間のスタートにあたり、子供たちに下記のような校長講話を行いました。

2011年3月11日午後2時46分、東北地方で大きな地震が発生し、それにもなって大きな津波が人々を襲いました。この大地震と津波で、1万6千人の人が命を落としました。そのような中、港の近くにある釜石小学校では、ほとんどの児童が学校にいましたが、全員の命が助かりました。地震や津波で、多くの人の命が奪われる中、釜石市内の全部の小中学校でも同じように亡くなる人はほとんどい



ませんでした。人々はそれを「釜石の奇跡」と呼びました。

どうして釜石の子供たちは、津波から生き残ることができたのでしょうか？それは学校で習ったことを、子供たちみんなが守ったからです。昔、大きな津波でたくさんの方の命が奪われた釜石市では、『津波が来たときには、自分で考えて、1秒でも早く、高いところへ「にげろ!」ということが学校で教えられてきました。



釜石の学校では、『率先避難者』

つまり、勇気を出して最初に避難する人間になれと教えられてきました。自分の「いのち」は自分で守ることが、徹底して教えられてきました。

一つしかない大切な命。この命を大切にすることは、どうすることでしょうか？命を大切にすることは、「危ないことをしないこと」「危険な場所に近づかないこと」「友達を大切にすること」「人を傷つけたり、自らを傷つけたりしないこと」そして与えられた「命という時間を大切にすること」だと思います。

人は、生まれてからこの世を去るまで時間がありますが、この時間を何の目的もなく無駄に過ごしたのでは、命という時間を大切に過ごしたとは言えません。例えば、勉強を頑張るとか、スポーツを頑張るとか、友達や家族と楽しく過ごすなど、充実するような過ごし方をしないと、命を大切にしているとは言えません。



「命という時間を大切にする」ために、是非4つのことを実行してほしいと思います。

- ① 命という時間を上手に使う
- ② (命という時間を失わないために) 安全に気をつけた行動をする
- ③ (命という時間を幸せに過ごすために) 自分以外の人も大切にすること
- ④ 命という時間が(代々)繋がっていることに感謝すること

皆さん一人一人は、かけがえのない大切な人です。ご両親はもちろん、先生方も皆、皆さんが大好きです。自分の「いのち」は自分で守り、命という時間を大切にすることになってほしいと心から願っています。最後に、釜石小学校の校歌を紹介して、お話を終わります。

釜石小学校校歌

井上ひさし 作詞
宇野誠一郎 作曲

いきいき生きる
ひとり立って
困ったときは
星をめぐって
息あるうちは

いきいき生きる
まっすぐ生きる
目をあげて
まっすぐ生きる
いきいき生きる

はつきり話す
びくびくせず
困ったときは
人間について
考えたなら

はつきり話す
はつきり話す
あわてずに
よく考える
はつきり話す

しっかりとつかむ
まことの知恵を
困ったときは
ともだちの手を
手と手をつないで

しっかりとつかむ
しっかりとつかむ
手を出して
しっかりとつかむ
しっかりと生きる